

ばらんす

第21号

編集発行

大田原市企画部企画政策課
男女共同参画係
〒324-8641
大田原市本町1丁目4番1号
☎ 0287-23-8701
FAX 0287-23-8748

大田原市合併記念

男女共同参画講演会

～男女がともに輝く社会を目指して～



9月9日(土)大田原市総合文化会館ホールにおいて、広瀬久美子さん(元NHKアナウンサー)の講演がありました。

『女の器量・男の器量』

男女共同参画でまず大切なことは、思っていることをきちんと相手に伝えることです。話し合いをすることで理解しながら、お互いの意識を変えていくのです。「女は3歩退いていませんか?」女性が男性に尽くすのは当然、と言うやり方は男性の豊かな才能をつぶしてしまうことにもなるのです。男女にかかわらず生活の上で自立することです。その上で、**お互いに“持ちつ持たれつ”力を合わせて助け合うことが男女共同参画の基本**です。

家庭は社会の核、まず家庭から男女共同参画を進めてください。従来の良い夫、良い妻という枠を外して、お互いが輝くためにはどうあるべきかを考えてみてください。結婚前は母に身の回りの面倒を見てもらい、その後、妻にバトンタッチで一人では生きていけないようでは、たった一度しかない人生、もったいないではありませんか。**家庭が輝けば社会も輝くのです**。子育てにおいても、二人で力を合わせてすばらしい社会が築けるように、育ててほしいと思います。



広瀬久美子さん



言葉を制するものは世界を制する。ほんのちよつとのあいさつや、お互いを思いやることで男女が輝く社会になっていくのです。相手を一人の人間と見たときに、言葉も態度も変わってくるものです。**言葉を使うということは心を遣うということです**。身についた思いやりのある言葉を使うことができるよう、努力して素敵に輝かしく生きてください。

輝

輝いて生きる



地域に輝いて生きる人・人・人を紹介します。

子どもに係わる仕事をという意志を実現している幼稚園教諭 ^{やまざき}山崎昭宏さん、新たな職場で働く市営バス運転手 ^な南須原ハリさん、荒れ山を牡丹山に変えた富士ぼたん園、園主 古森幸一・玉子夫妻です。



ぼくは 園見のお兄さん



「子どもという時間はとても楽しいです」とさわやかな笑顔で話す山崎先生は、ひかり幼稚園七年目で現在、年中組の担任だ。

山崎先生は三人兄弟でお兄さんの赤ちゃんにはじめて会ったとき、強く指を握られたことが印象に残っていて、中学二年のころから子どもに係わる仕事をしたいと思っていたそうである。

男子校の商業科を卒業し、幼稚園教諭の資格の取れる短大に進学、そのとき友だちは驚いたり、賛成してくれたり、いろいろな人がいた。両親は長く続けられるかと不安な様子だったそうである。

幼稚園の先生一年目、年中組の副担任のとき、子どもたちは、はじめての男の先生ということだとまどつ

ている様子だった。同僚の先生たちは男の人としてではなく同じ教諭として、仲間としてあたたかく接してくれ、感謝しているという。

「子ども一人ひとりの成長が感じられうれしい。子どもからパワーをもらい自分も成長させてもらっている、男の子は兄のように慕い喜んで遊ぶ。卒園した子どもたち以外で声をかけられるのもうれしい。」と話してくれた。

これから幼稚園の先生を目指す男性へ「女性が多い職場だが情熱を持った先生が増えてほしい」と運動会前の忙しいなか、話してくれた。運動会、成功しますように、晴れますようにと祈って幼稚園を出た。

—鈴木(え)—

わたしは プロの運転手



大田原市は十二路線で十九台のバスが運用されている。その中にひとりの女性運転手さんがおられることをご存知だろうか。その運転手さんは七年前に免許を取得された南須原ハリさんである。「はじめて乗ってこられたお客さんは、ちょっと驚いておられますね。『女性の運転手か！すごい！えらい』とか、ときには皮肉を言われる方もおられますが、次にお目にかかったときは、たいがい笑顔であいさつして下さいますね」とお客さんの反応を語られる。

南須原さんは女性として、お客さんとの対応は当然違うが運転手として女性を意識していない。常にプロ意識を持ち、「お客さま第一に安全と安心の仕事」「会社人として責任ある仕事」「自身で誇りが持てる仕事」以上、三つのことを信条として心がけているそうである。



早朝、一番のバスは市役所前六時十分発、最終便は午後十時二十分市役所前着と厳しい勤務時間もあるが、家族の協力、同僚の励ましに支えられここまでできたそうである。高齢化社会を迎え、移動手段のない高齢者が増え、細やかな気配りのバスの運転手が求められている。このような時代だからこそ、女性のドライバーが後に続くことを願っています、と語られた。

—谷辺—

夫婦で開いた ぼたん園

古森幸一、玉子ご夫妻が経営される湯津上の観光名所「富士ぼたん園」は、今では関東一円で知られるが、その開墾物語はなみではなかった。

十七年前、幸一さんが日本一の富士山の地名にほれこみ標高198mの急勾配の荒地を手に入れた。富士山の名前に相応しいものと考えたすえ、百花の王「ぼたん」がひらめいたと語られる。しかし、その荒地の開墾は無謀をきたしていた。それまでの農作業のかたわらの開墾作業、資金作りのための労務作業にと夫婦二人でかけた。

「夫は、これと想ったら後に引けない人なので、私は反対でしたがついていてあげなくては、との思いがあつたからかしら…」と、今では苦勞のかけからも感じさせない笑顔で玉子さんは笑われる。

幸一さんも「妻の料理はね。何を作っても美味しく、盛りつけもきれいなんですよ」と玉子さんを気づかしながら「私たち夫婦は仕事のうえでは二人三脚の戦友です。外向きは私が上ですが本当の中身は妻が上で」と真顔で語られた。

また、玉子さんは「ぼたんの花は作り手の心に敏感なんです。花の気持ちにくみながら手入れをすると応えてくれます。大変なときもありましたが、この仕事を一緒にやらせ

てくれた夫に、今は本当に感謝しているんですよ」と夫婦で、お互いの思いやりが伝わってきた。

追い肥作業の手を休め苦労話を語って戴いたご夫婦は、古希を過ぎて、なお楊貴妃に例えられるぼたんの花に通じ、まさに比翼連理の夫妻と思ひながら「富士ぼたん園」を後にした。



【参考】
「比翼連理」「比翼の鳥、連理の技」の事です。

玄宗皇帝が楊貴妃と七夕の夜に永遠の愛を誓い合ったときの例えて、男女夫婦の結びつきが固く、情愛が深いことを意味します。

—谷辺—

今後はシリーズ「輝」として連載いたします。ご期待下さい。また皆様からの情報もお待ちしています。



フランス・ベルギーを訪問

10月10日(火)
～10月19日(木)

大田原市女性の海外研修

未来のとびらを開けよう! ～夢に向かって勇気と行動～



子どもたちと
いっしょに

ベルギー：幼稚園研修



カヴァイヨン市表敬訪問

団員のみなさん

- *大久保 征 美
- *可 兒 回 光
- *唐 橋 洋 子
- *小 森 ルミ子
- *須 堯 紀美恵
- *相 馬 美 幸子
- *西 村 美 恵子
- *室 井 昌 子
- *山 木 つる子
- *和久井 順

それぞれの動機で集まった10名。その10名と共にすごした異国の地での10日間、感動と驚きの連続でした。

思うことは、誰でも出来ます。それを行動に移すには大きなエネルギーが必要です。不安ばかりが先に立ちます。

行動に移すことによって、出会いがあり、感動があり、感謝する心が生まれます。まさにそのすべてを体感することができた研修でした。今、自

分の中に、今までの私にはなかったものを感じています。今、その光は小さいけれど、私の心の中で確かに灯り始めました。

自分が変わること、何か出来るかもしれない。きっと出来る。1人では無理かもしれないけれど、10人なら出来る、そんな気持ちにさせてくれる研修でした。このような機会を下さったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

“ありがとうございます”



少子化や核家族等、子育てに関する問題が多くいわれているこの頃、大田原市においては子どもたちの各種交流会が開催されました。その中から2つの交流風景を追ってみました。



お父さんと子どもの ふれあいクッキング



8月20日（日）東地区公民館において、講師に渡辺恵津子さん（エコクッキングスクール代表）をむかえ、12組32名の親子が参加して、『お父さんと子どものふれあいクッキング』が開催されました。

メニューは“冷やしうどんごま味噌たれ”と“カスタードクリーム・グラス”。普段料理はしないというお父さんがほとんど。「お母さんのほうがテキパキしている」とい

う手きびしい感想もありましたが、料理終了後には「お父さんと料理が出来て良かった」という声を子どもたちから聞く事が出来ました。一方、お父さんも「娘と料理を作るということは新鮮なことだった」「自分の好きなものを自分で作ってみたい」との声もあり、8割以上のお父さんが、できれば家庭でも料理をしたいと思う。とアンケートに答えてくれました。

交流

kouryu

児童とほほえみセンターの方との交流

9月21日（木）にゲートボールとグラウンドゴルフを通して、地域の方々と交流するとの目的で、薄葉ほほえみセンターのお年寄りと薄葉小学校6年生の児童による、交流会が開催されました。

ゲートボールもグラウンドゴルフも今回が初めてという児童たち。最初は緊張していたようですが、お年寄りたちの優しい指導に和やかな雰囲気になりました。

- おじいちゃん、おばあちゃんがとても上手でびっくりした。
- 機会があったらまたやってみたい。
- 次の交流会が楽しみ。

と、児童たちは交流会感想文に書いていました。お年寄りも、子どもたちが一緒だと和やか、皆いきいきしていたと、にこやかな顔で話してくれました。

今年度中の交流会としては、卓球・輪投げ、料理に関した事、昔を知ろう等、3回を予定しているそうです。



編集員から一言

第9号からかわり、男女共同参画社会のあり方、紙面づくり等、楽しみながら学んでいます。

久保愛子

「思いやりのこころ」を持ちながら女性も男性も益々輝くことを願って微力ながら頑張ります。

鈴木章浩

「ぼらんす」の編集には16号より参加。新しくなった「ぼらんす」作りの手伝いができたら…と思っている。

住吉すみ子

みんながやさしくなれる、認めて認められる男女共同参画を少しずつ進めたいと思っています。

鈴木えい子

「ぼらんす」は、市の男女共同参画情報紙として1996年に創刊し21号を数えています。その視点に共鳴し、紙面づくりに参画していきたいと思っています。

栗原敏子

みなさまと男女がぼらんすよく輝いて生活できるように考え、編集に当たっていきなしたいと思います。

神立道子

地縁血縁の無い新人です。生まれ育った瀬戸内と風の匂い風土が違います。その違いをこの町に生かしたい。

谷辺範夫

編集後記

大田原市歌“大地、空を映して”が制定されました。

その一節、この街に生まれてよかった この街に住んでいてよかった…

この言葉が生まれる大田原市、男女が共に元気に暮らし、安心して仕事出来る大田原市を目指し、「ぼらんす」も共に進みたいと思います。

(栗原)

よろしくお願いたします!

